

給食のビワで児童生徒126人がアレルギー反応 担当者「良い機会と思ったが予想外だった」



山梨県富士吉田市は25日、給食でビワを食べた市内の小中学校の児童生徒計126人が、のどのかゆみなどのアレルギー反応を訴えたと発表した。うち3人が救急搬送されて治療を受け、2人はすでに退院、もう1人も快方に向かっているという。

市学校給食センターによると、児童生徒らは給食を食べた後、のどのかゆみや目の赤い腫れ、目のかゆみなどの症状を訴えた。腹痛やじんましんが出た子どももいたという。

ビワは香川県と愛媛県産で、センターで洗浄した後、市内の11校に約3500食を提供した。特産地を知ってもらう食育の観点などから出したという。担当者は「良い機会だと思ったが、(アレルギーの発生は)予想外だった」と話し、今後ビワの提供はしないとしている。

渡辺治男教育長は「ご心配とご迷惑をおかけしたことを深くおわびする。細心の注意を払い、より一層安心安全な給食を提供していく」とコメントした。

(令和6年6月25日(火) 読売新聞オンラインニュースより一部抜粋)